

優秀賞

# ひいおじいちゃんの飛行機

神奈川県 湘南白百合学園小学校六年 駒谷 知咲

今年の夏休みに家族で名古屋に旅行に行きました。目的は、ひいおじいちゃんが設計に関わった飛行機を見に行くことでした。ひいおじいちゃんには会ったことがなく、写真を見たり、母から話を聞いたことがあるくらいだったので、正直あまり楽しみではありませんでした。むしろ、次の日に行く名古屋港水族館の方が楽しみでした。

飛行機を見に行ったのは、岐阜県の『かがみはら航空宇宙博物館』と、愛知県の『あいち航空ミュージアム』の二か所です。どちらのミュージアムにも昔の飛行機や、戦争で使われた戦闘機、人を乗せて飛ぶ旅客機などが展示されていて、飛行機の歴史がよくわかるようになっていました。

ひいおじいちゃんが設計に関わったのは、『ゼロ戦』という戦闘機と『YS-11』という旅客機だそうです。ゼロ戦は戦争で使われた飛行機なので、正直少し悲しい気持ちになりました。母から聞いた

話では、戦争中に戦闘機を作っているのがアメリカ兵に気付かれないよう、地下に部屋を作って部品を作成したそうです。でも部品だけでなく飛行機として大きくなると、森の中で気づかれないように生産したこともあったと聞きました。今回設計図などの展覧もあり、祖父の写真も展示してあって、なぜ戦争で戦ったものなのに、こんなに大事にされるのだろうと初めはよくわかりませんでした。

でも、ミュージアムで展示されていた設計図や写真を見て、長距離を飛べる戦闘機は日本軍の空の主力機として有名であるだけでなく、軽量化などの優れた技術が日本の技術力の結晶とされ、その後の航空機の歴史でも活用されていることを知りました。多くの人が命を落とすことになった兵器であること、とても悲しいですが、今年は戦後八十年であり、戦争のことを考える機会になりました。ジブリの映画で有名な『風立ちぬ』では、ひいおじいちゃんと

一緒に戦闘機の設計をした堀越二郎さんはとても有名で、ひいおじいちゃんはその堀越さんとともにゼロ戦の七人衆の一人だそうです。また、この戦闘機の設計や生産に関わったひいおじいちゃんたちは、この戦闘機を国産旅客機YS-11の設計に応用したそうです。そして東京オリンピックという平和の祭典の聖火リレーの空輸にも使われ、「平和利用」の象徴とも言われていました。

今回ひいおじいちゃんの飛行機を見学し、二度と起こしてはいけない戦争について考えるときにも、「ひいおじいちゃんの飛行機」が平和利用につながったことを知り、私はとても感動しました。これまで他人事と思っていた戦争のことを、ひいおじいちゃんから母へ、母から私へと伝えられてきました。この先も戦争のことを伝え、平和のことを考えていかなければいけないと思いました。

